「四国防災八十八話」を読んで

肱東中学校　一年　冨永　哲平

僕は、「四国防災八十八話」の中でも、僕が住んでいる大洲の話「豫州大洲洪水噺」を読んでみました。この話は、洪水にはどのような恐ろしさがあるのか、また、実際に大洲でどのようなことが起きたのかについて書かれています。

僕は、この話を読んで、洪水の恐ろしさを改めて感じました。いつもは、洪水などなく、あったとしても、この話のような大洪水を僕は、経験したことがありません。だから、この話を読むまでは、洪水なんてたいしたことはないと思っていました。でも、この話を読んで、考えが変わりました。洪水だけで、こんなに大きな被害が出るなんて、実際に起こった話なので、大変、怖く、恐ろしく感じました。洪水の恐ろしさを感じて、どうすれば洪水を防ぐことができるのか知りたくなり、この話以外に「水よけ場」という話があり、

読んでみました。

この話は、先ほどの話とは違い、どうすれば水害を防ぐことができるのかについて書かれています。肱川のはんらんにより、度々田畑や住宅が水害を受けてきた地域では、土地を高くして浸水しないような避難場所として水よけ場を築き、現在でも若宮地区などに残されているそうです。昔の人は、みんな水害に苦しめられ、水害を防ぐ知恵をはたらかせ、いろいろなことを考えたのだと思います。僕は、あまり深く考えずに、水害なんて他人事のように考え、大丈夫と思っていた自分が恥ずかしくなりました。

これからは、この本を読んで感じたことを自分だけでなく、まわりの多くの人に伝えたりすることが大事だと思います。みんなに伝えることで、一人一人の防災に対する考えが変わっていき、いざという時、みんなが助け合い、協力し合えるようにしたいです。